

「テクレル」構文の日中翻訳規則について

譙 俊凱

キーワード：「テクレル」構文、モノの授与、受影者の変化、“給”構文、無標構文

要 旨

本稿では、先行研究の問題点の解決に向けて、中日対訳コーパスから収集した1405例の「テクレル」構文を受影者の格によって分類し、「モノの授与」と「受影者の変化」といった基準を立て、各種の「テクレル」構文の意味特徴を明らかにし、必ず“給”構文に訳さなければならない条件、無標構文と“給”構文のいずれにも訳し得る条件、無標構文のみに訳す条件を明らかにする。それを踏まえ、「テクレル」構文の日中翻訳フローチャートを提案する。さらに、実例検証を通して、フローチャートの有効性を検証する。

1. はじめに

李(2009)は、先行動詞との共起関係によって日本語の「テクレル」構文と“給(我)”¹構文との対照を行った。李(2009:12)は中国語の“給(我)”構文と日本語の「テクレル」構文の対応に関して、以下の動詞の場合は両者が対応しているが、それ以外は対応していないと主張している。

具体的なものの移動を表す対象移動動詞の場合：

- (1) 女儿出差上海回来，给我买回一块手表。(《人民日报》1993)娘は上海へ出張して、時計を買ってきてくれた。

発話内容移動動詞の場合：

¹李(2009)によると、ここでの“我”は話し手が自分と心理的に近いとみる身内の人を指す。

- (2) 他给我讲了许多他小时候的事。(肖华《我和张艺谋的友情和爱情》)かれは小さいときのことをたくさん話してくれた。

作成動詞の場合：

- (3) 她猜到了我没有吃早饭，匆匆忙忙地给我做饭。(梁晓声《京华闻见录》)彼女は私がまだ朝ご飯を食べていないと思って、急いで作ってくれます。

((1)~(3)は李 2009:8-9)

しかし、李(2009)の主張に反する例文は以下の通り存在する。以下の(4)~(6)においては、先行動詞が「買う」「話す」「作る」である日本語の「テクレル」構文が自然であるのに対し、“給”構文に訳すと、非文か元の文と違う意味を表す文になってしまう。

- (4) 不動産売却の際、所有者本人が営業セールスして買ってくれる人を見つかけられるといいですが。(少納言)

筆者訳：*² 在销售不动产的时候，持有者通过营销能找到给他买的人就不错了。

- 在销售不动产的时候，持有者通过营销能找到买的人就不错了。

- (5) 私がそのことを口ごもり、松村一人が助け舟を出して、私の『戦争と平和』論のことを話してくれた。(少納言)

筆者訳：# 我闭口不谈，松村一人从旁相助，给我谈了我的《战争和和平》论。

- 我闭口不谈，松村一人从旁相助，谈了我的《战争和和平》论。

- (6) 肌を引き締め、健康な肌を作ってくれるのだそうだ。(少納言)

筆者訳：# 据说可以使肌肤紧致，给我创造健康皮肤。

- 据说可以使肌肤紧致，让人拥有健康皮肤。

²本稿では、「*」は非文、「○」は自然な文、「??」はかなり不自然な文、「#」は元の文の意味と異なる文を指す。

(5)(6)の筆者訳を日本語に訳すと、「松村は私に話してくれた」「私に健康な肌を作ってくれる」という意味になってしまい、元の「テクレル」構文の意味と異なっている。従って、“給”構文に訳すのは不適格である。

さらに、『中日対訳コーパス』から以下のような例文が検索された。いずれも李(2009)の主張に反する例である。

(7) 野島にもよく話しかける。梨をむいてくれる。³

中訳：她经常对野岛讲话，给他削梨。

(8) あの時分にはあたしの体を始終洗ってくれたじゃないの。

中訳：那时不是经常给我洗吗？

(9) 両親は俺が幼児のときに、矯正手術をしてくれなきゃだっただの。

中訳：小时候父母本应及时给我做矫正手术……

(7)～(9)では、「むく」「洗う」「手術をする」はいずれも「対象移動動詞」「発話内容移動動詞」「作成動詞」ではなく、単純に動作を表す動詞であるにもかかわらず、「テクレル」と共起して、“給”構文に訳すことができる。そのため、動詞の属性のみによって、「テクレル」構文と“給”構文との対応関係を検討してきた李(2009)の分析は不十分であると考えられる。本稿では、動詞の属性に加え、文の意味から、「テクレル」構文の日中翻訳規則について説明をしていく。

2. コーパス調査

分析に先立ち、「テクレル」構文の日中翻訳の実態を把握するために、「中日対訳コーパス」を利用し、調査¹を行った。その結果は表1のようになった。表1における「無標構文」とは構文上当該の授受補助動詞と対応する表現がなく、先行動詞のみを述部とする中国語の動詞文のことを指す。

³この例文では、話し手の視点が「野島」に置かれて述べられている。即ち、「野島」は話し手にとって身近な人と見られ、中訳の“他”(彼)の機能は“我”(私)と同じである。

⁴ 検索方法としては、それぞれ「[てで][く呉]れ」、「[てで]くださ[らりる]れろっ」、「[てで]下さ[らりる]れろっ」といった正規表現を入力し、検索された例文から手作業で「窓をしめてくれ」のような依頼モダリティを表す文を排除する。

表 1 における“給”構文には三つのパターンがある。それぞれ「N1+給+N2+V+N3」または「N1+V+給+N2+N3」、「N1+V+N3+給+N2」(N1は動作主、N2は人を指す名詞、Vは動詞、N3はVの直接目的語)の構造を持つ文である。さらに、“給”とVの語順によって、前者の「N1+給+N2+V+N3」を「給V」構文、後者の「N1+V+給+N2+N3」と「N1+V+N3+給+N2」を「V給」構文と称する。「給V」構文においては、“給”は前置詞で、「V給」構文においては、“給”は「V給」複合動詞の後部要素か接辞と見られるが、いずれも動作Vの影響を受ける人を導くことができるという点では同じである。

“为”、“替”、“帮”構文は「給V」構文と同様の構造で、「N1+为/替/帮+N2+V+N3」(N1は動作主、N2は人を指す名詞、Vは動詞、N3はVの直接目的語)の構造をしている。“为”、“替”、“帮”はいずれも前置詞である。便宜上、上記の“給”、“为”、“替”、“帮”の形式を含む構文を一括して授受の有標構文とする。

表 1 「テクレル」構文の中国語の訳のパターン

訳される中国語の表現	例文数	比率
A 無標構文	1187	84.48%
B 給	145	10.32%
C 为	46	3.27%
D 替	22	1.57%
E 帮	5	0.36%
合計	1405	100.00%

表 1 を見ると、「テクレル」構文と“給”構文の対応率は 10%程度で、極めて低い。即ち、「テクレル」構文は“給”構文とはほとんど対応していないと言える。そのため、「テクレル」構文についても先行研究の主張の有効範囲はかなり制限されているのである。

3. コーパス調査の結果の分析

コーパス調査によって、「テクレル」構文と中国語の授受有標構文との対応率が低いことが明らかにされたが、コーパスの訳文は唯一の訳であるというわけではない。そのため、筆者は表1における「テクレル」構文について、中国語の訳文を内省で判断し、分析した結果を表2に示す。

表2を見ると、授受の有標構文に訳すことができる「テクレル」構文(B+C)の数は421例で、全体の29.96%に過ぎない。その中では、“給”構文に訳すことができる「テクレル」構文(B1+C1)は390例で、有標構文の92.64%を占めているため、本稿では、日中翻訳上、「テクレル」構文と“給”構文との対応に関して分析を行う。さらに、先行研究が触れていない無標構文のみに訳す「テクレル」構文も視野に入れ、「テクレル」構文についての日中翻訳規則を明らかにしていく。本稿では、特別な説明がない限り、使用した例文は『中日対訳コーパス』から検索したものである。

表2 「テクレル」構文と対応する中国語の表現についての分析

中国語の授受の有標構文に訳すかどうか		例文数	比率
A 無標構文のみ		984	70.04%
B 無標構文と授受の有標構文のいずれか	B1 無標構文と“給”構文のいずれか	235	16.73%
	B2 無標構文と“替/帮”構文のいずれか	3	0.21%
	B3 無標構文と“为/替/帮”構文のいずれか	2	0.14%
C 授受の有標構文のみ	C1 “给”構文 ⁵	155	11.03%
	C2 “为”構文と“替”構文のいずれか	13	0.92%
	C3 “为”構文	6	0.43%
	C4 “为”構文と“替”構文と“帮”構文のいずれか	4	0.29%
	C5 “替”構文	3	0.21%
合計		1405	100%

⁵ここでいう“给”構文には“为”“替”などほかの有標構文が含まれている。意味上それらの構文は“给”構文に置換されても意味上問題がないため、“给”構文で一括代表することにする。

4. 「テクレル」構文の分類

本稿では、山田(2004)が提唱した「受影者」⁶の概念を導入し、「テクレル」構文を分類することにする。「テクレル」構文においては、受影者が必ずしも現れるわけではないのに対し、“給”構文においては受影者が授受の有標構文の必須要素で

表3 「テクレル」構文における受影者の格

受影者の格	a 必ず“給” 構文に訳す	b “給”構文と無標構文 のいずれにも訳し得る	c “給”構文 に訳せない	合計
「ニ」格	55	174	128(無標構文：128例)	357
ノタメニ	61	51	276(無標構文：253例、“為”“帮”“替”構文：合わせて23例)	388
ノ格	37	0	132(無標構文：125例“為”“替”構文：合わせて7例)	169
ヲ格	0	8	237(無標構文)	245
?	2	1	235(無標構文)	238
ト格	0	0	5(無標構文)	5
ノカワリニ	0	0	1(“替”構文)	1
ニカワッテ	0	1(“替”構文)	0	1
カラ	0	0	1(無標構文)	1
合計	155	235	1015	1405

注：?とは受影者を表示できないことを指す。

⁶ 山田(2004)によると、受影者は動作の受け手だけではなく、動作から何らかの影響を受ける人を指す。

あるために、日中翻訳上その受影者についての分析も必要であると考えられる。対訳コーパスから検索された「テクレル」構文について、日本語における受影者の格表示と中国語の翻訳表現の対応関係を表3のように示す。

次節から、表3のデータに基づき、どのような条件で、「テクレル」構文を“給”構文に訳すかに関して詳しく検討する。

4.1. 「ヲ」格で受影者を導く「テクレル」構文

表3によると、「ヲ」格で受影者を導く「テクレル」構文は合わせて245例である。そのうち、中国語の授受の有標構文に訳し得るのはわずか8例である。いずれも“給”構文と無標構文のいずれにも訳し得る。

4.1.1. “給”構文と無標構文のいずれにも訳し得る場合

日中翻訳上、“給”構文と無標構文のいずれにも訳し得る「テクレル」構文は以下の例のようにいずれも先行動詞の意味によって「モノの授与」の意味合いが読み取れるものである。

- (10) 応援の仕方はいくらでもある。精神的に(私を)応援してくれたらいい。何をしなくても…

中訳：支持的方式有的是。精神上的支持也可以，即使什么也不做……

筆者訳：支持的方式有的是。精神上给我加油打气也可以，即使什么也不做……

- (11) そう言って、八千代を案内してくれた。

中訳：说着，给八千代带路。

筆者訳：说着，带着八千代去。

楊(1994:118)は「…日本語では受益者が直接目的語であるが、中国語では、他動詞文しか用いられず、受益構文を用いることができない」と述べているのに対し、(10)(11)はその反例になると思われる。(10)(11)では、先行動詞の「応援する」「案内する」によって、それぞれ「力」「案内情報」という「抽象物」を「ヲ」格としての受影者に授与するという意味を表している。それらの抽象物を与えるという意味から考えれば、(10)(11)は“給”構文に訳すことができる。一方、「モノの授与」を考

えず、「テクレル」による動作主の動作に対する恩恵的感情の角度から訳すと、“給”構文に訳せない。筆者訳が考えるように(10)(11)を必ずしも“給”構文で訳さなくてもよい。

4.1.2. “給”構文に訳せない場合

「ヲ」格で受影者を導く「テクレル」構文においては、“給”構文に訳せない例は237例で、約96.73%を占め、いずれも「モノの授与」の意味合いが読み取れない。

- (12) それはたぶん直子が僕を一人の友だちとして認めてくれたしるしだろうと僕は思ったし。

中訳：我想这大概是她将我作为一个朋友予以承认的表示。

- (13) 九日の朝早く、細川の兄が湯田村から福山まで私を自転車の後に乗せて送ってくれました。

中訳：九日一大早，细川的哥哥让我坐在自行车后边，从汤田村把我驮到了福山。

(12)においては、先行動詞の意味から、受影者に対する「モノの授与」という意味が読み取れない。また、それらの動詞の「ヲ」格も受影者であるので、先行動詞による「モノの作成」とも考えられない。そして、「モノ」が存在しないので、「テクレル」によって「モノの授与」を表す可能性もない。従って、(12)の「テクレル」構文は“給”構文に訳せない。

(13)においては、先行動詞は「送る」である。李(2009)では、「(物を)送る」の場合の「送る」は具体物の移動を表す「対象移動動詞」に属し、もともとガ格参与者のもとに存在したものが「ニ」格参与者へと移動することを表す動詞類であると指摘され、先行動詞がそのような動詞である場合には「テクレル」構文が“給”構文と対応していることを主張している。(13)では、「私を送る」は「ヲ」格のものを「ニ」格の参与者へと移動することではないので、李(2009)の「対象移動動詞」の範囲に入らず、“給”構文と対応しないと考えられる。その理由について李(2009)は説明していないが、本稿では受影者に対する「モノの授与」の意味合いが読み取れないことにあると考える。「送る」という動作によって、「私」に何らかのモノをもたらすことが表せないため、“給”構文に訳せないのである。

4.2. 「ト」格で受影者を導く場合

表3によれば、「ト」格で受影者を導く「テクレル」構文はわずか5例で、いずれも“給”構文に訳せない。以下の例文が該当する。

(14) けれども、そんないい人たちは、僕と遊んでくれやしない。

中訳：可是那样的好人却不会要跟我交往。

(15) ボクと友達をつないでくれたのは、ないはずの「手足」。

中訳：我结交朋友靠的是我没有手和脚。

(14)(15)では、先行動詞「遊ぶ」「つなぐ」の意味によって、「モノの授与」か「モノの作成」が一切表されていない。つまり、モノの出現条件がそもそも存在していないので、「モノの授与」を表すことができないと言える。一方、先行動詞の意味に「モノの授与」が含意されていても“給”構文に訳せない場合もある。

(16) 太郎は僕とプレゼントを交換してくれる。(作例)

筆者訳：○太郎和我交换礼物。

*太郎给我交换礼物。

「ト」格と共起する動詞は双方の動作を表さなければならない。しかし、“給”構文では一方的な動作しか表さないのので、双方向動作を表す「交換する」という動詞と共起できない。そのため、先行動詞には「モノの授与」の意味が含まれているにもかかわらず、「ト」格で受影者を導く「テクレル」構文は“給”構文に訳せない。

4.3. 「ニ」格で受影者を導く場合

表3によれば、受影者を助詞「ニ」で補える「テクレル」構文は全部で357例である。そのうち、中国語の有標構文に訳し得るのは229例であるが、いずれも“給”構文に訳すことができる。

4.3.1. 必ず“給”構文に訳す場合

表3によると、必ず“給”構文に訳す「テクレル」構文は55例であり、いずれも「テクレル」による「モノの授与」の意味を表している。

(17) 母は母で、暇さえあればボクに本を読んでくれていた。

中訳：母亲呢，只要一有空就给我读书。

筆者訳：#母亲呢，只要一有空就读书。（母は母で、暇さえあれば本を読んでいた。）

(18) あんなにお金が沢山あるのに、あたしに着物の一枚ぐらい拵えてくれてもいいと思うわ。

中訳：我想，你有那么多钱，给我做一件衣服总是可以的。

筆者訳：#我想，你有那么多钱，做一件衣服总是可以的。（あんなにお金が沢山あるのに、着物の一枚ぐらい拵えてもいいと思うわ）

(17)(18)では、受影者がいずれも「ニ」格で導けることが確認される。先行動詞の「読む」「拵える」によって、「情報を伝える声」「着物」といったモノを作成したりするという意味を表すが、誰かに授与する意味をそもそも持っていない。「テクレル」を先行動詞のテ形に付けてはじめて、「ニ」格の受影者が現れてくるのである。「ニ」格と「テクレル」との共起によって、作成したモノを受影者に与えるという意味合いを読み取ることができる。つまり、「モノの授与」は「テクレル」によるものであると言える。この場合日中翻訳上、必ず“給”構文に訳さなければならない。“給”がない筆者訳では、ただ動作主の動作を描写するのみである。

李(2009)では、具体的なものの移動を表す対象移動動詞と発話内容移動動詞また作成動詞である場合は「テクレル」構文は“給”構文と対応していると指摘されているものの、その理由について述べていない。本稿では、「テクレル」による「ニ」格の出現および「モノの授与」の意味が含まれることがあるからこそ、両者の対応は成立するのであると考える。

4.3.2. “給”構文と無標構文のいずれにも訳し得る場合

「ニ」格で受影者を導く「テクレル」構文においては、“給”構文と無標構文のいずれにも訳せる実例は174例である。いずれも「モノの授与」の意味を表しているも

の、その「モノの授与」の意味は先行動詞によるもので、「テクレル」と関わっていない。以下の例文を見てみよう。

- (19) 甚だ地味な外見の食品だが、僕は(私達に)この食糧を送ってくれた妻の里の人に密かに感謝した。

中訳：虽然从外表看是极平常的粗粮，但我还是向偷着送来干粮的妻子的娘家人表示感谢。

筆者訳：虽然从外表看是极平常的粗粮，但我还是向偷着给我们送来干粮的妻子的娘家人表示感谢。

- (20) こう言って、袋の中に残る冷い焼餅らしいものを取出して、細君は三人の児に分けてくれた。

中訳：太太从说完从袋子里边拿出剩下的烧饼似的冷干粮，分给了三个孩子。

筆者訳：??太太说完就从袋子里拿出剩下的烧饼似的冷干粮，分了三个孩子。

(19)(20)では、先行動詞の「送る」「分ける」はいずれも「授与」の意味を持っている動詞であり、そもそも先行動詞自体に何らかのモノを誰かに授与することが含意されている。加えて、受影者を導く「ニ」格は先行動詞の項であり、「テクレル」によるものではない。つまり、先行動詞のみによって「モノの授与」の意味を表していると言える。

「具体的なものの移動を表す対象移動動詞の場合、「テクレル」構文と“給”構文とは対応している」という李(2009)の主張は成立すると考えるが、必ず対応しているとは言えない。それは先行動詞の「送る」「分ける」を中国語に訳す際、“給”の持つ性質が違っているからである。「送る」に対応する中国語の“送(song)”は“送我们粮食”(私達に食糧を送る)という二重目的語構造を取れる三項動詞であり、“給”の付加は任意である⁷。それに対し、「分ける」に対応する中国語の“分(fen)”について、“分给孩子干粮”は“分孩子干粮”より自然であるので、“給”の付加は義務的であると考えられる。従って、「ニ」格で受影者を導く「テクレル」構文においては、先行動詞が対象移動動詞である場合、“給”構文に訳すかどうかは先行動詞の意

⁷ 朱徳熙(1979)、佐々木(1994)を参照されたい。

味によるものであり、「テクレル」とは関係ない。このため、翻訳上“給”構文と対応することができる一方で、必須的ではない。

4.3.3. “給”構文に訳せない場合

同じく「ニ」格で受影者を導くものの、“給”構文に訳せない「テクレル」構文は合計 128 例である。いずれも「モノの授与」の意味合いが読み取れないものである。

(21) 君が僕に触れてくれていたときのことを忘れたくないからです。

中訳： 因我不愿忘记你接触我时留下的感觉。

* 因我不愿忘记你给我接触时留下的感觉。

(22) でも、きっと、お母さまも、弟も、また世間の人たちも、誰ひとり私に賛成して下さらないでしょう

中訳： 不过妈妈、弟弟和社会上的人肯定没有一个会赞成我。

* 不过妈妈、弟弟和社会上的人肯定没有一个会给我赞成。

上記の(21)(22)では、先行動詞の「触れる」「賛成する」にはいずれも「モノの授与」が含意されていないので、それらの動作により何らかのモノの作成も表さず、単純な動作を行うことを表すのみである。加えて、「ニ」格の受影者は動作の対象であり、動作から何らかのモノを受ける意味合いを一切読み取れない。「テクレル」を付けたとしても、文全体の意味に「モノの授与」を付与することができず、受影者である話し手の恩恵的感情しか表していないと考えられる。従って、「ニ」格で受影者を導く「テクレル」構文が先行動詞の意味によっても「テクレル」によっても「モノの授与」の意味を表さないので、“給”構文に訳すことができない。

4.4. 「ノ」格で受影者を導く「テクレル」構文

「ノ」格で受影者を導く「テクレル」構文は 169 例である。そのうち、必ず“給”構文に訳すのは 37 例であり、“給”構文に訳せないのは 132 例である。以下の節では、受影者に変化が生じるかどうかという基準を立て、「ノ」格で受影者を導く「テクレル」構文と“給”構文との対応関係をめぐって分析する。

4.4.1. 必ず“給”構文に訳す場合

「ノ」格で受影者を導く「テクレル」構文のうち、必ず“給”構文に訳すのは37例である。その中で「ノ」格の受影者に変化が生じる意味合いが表されているのは35例である。以下の例文が該当する。

(23) あの時分にはあたしの体を始終洗ってくれたじゃないの。

中訳：那时不是经常给我洗吗？

(24) しかしABCCは被爆患者の発病経緯は調査するが、患者の治療をしてくれる施設ではないそうだ。

中訳：不过，据说这个机构只调查被炸患者发病的始末，并不给患者进行治疗。

(23)(24)では、先行動詞の「洗う」「治療する」の動作対象は受影者の身体部位であり、受影者は「ノ」格で表示されている。動作主の動作によって、受影者にある変化が生じることが読み取れる。

(23)では、「あたしの体」がきれいになるという変化、(24)では、動作主の動作によって、受影者の病気が治され、体がよくなるといった変化の意味を表している。また、「テクレル」の付け加えて、その変化を受影者が一種の恩恵利益と受け止めている。よって、「ノ」格で受影者を導く「テクレル」構文では、「受影者に変化が起きる」という意味を表す場合、“給”構文に訳さなければならない。

また、コーパスから実例が検索できなかったが、受影者の抽象的な所有物に対して動作を行う場合、抽象物が消滅するならば、“給”構文と無標構文のいずれにも訳し得る。消滅しなければ、“給”構文に訳せない。

(25) 太郎は私の悪い癖を正してくれた。 （作例）

筆者訳：○ 太郎给我纠正了坏习惯。

○ 太郎纠正了我的坏习惯。

(26) 周りの人々は私の個性を尊重してくれた。 （作例）

筆者訳：* 周围的人给我尊重个性。

○ 周围的人尊重我的个性。

一方、以下のような文は「テクレル」による「モノの授与」の意味を表しているので、必ず“給”構文に訳す。以下のわずか2例である。

- (27) 私がまだ初等科にかよっていた頃、お母さまがこれで私の頸巻を編んで下さった毛糸だった。

中訳：这些浅牡丹色毛线是从二十年前我上小学时母亲给我打的一条围巾上拆下来的。

- (28) それでも少しずつ席を詰めて、上原さんのすぐ右隣りに私の席をつくってくれた。

中訳：可也一点一点地挤出一个位置来，在上原先生的右旁给我让出了一个位置。

(27)(28)では、先行動詞は「編む」「つくる」といった作成動詞である。この場合、作成動詞によって、あるものが作られる。さらに、「テクレル」の付加で、そのものが受影者に授与するといった意味合いが読み取れる。そのため、文全体に「モノの授与」の意味が付与される。その「モノの授与」の意味は「テクレル」によるものであるので、翻訳上“給”構文に訳さなければならない。

但し、作成動詞であっても、必ず“給”構文に訳すわけではない。以下の例を見てみよう。

- (29) 小学校は僕達に多くの大切なことを教えてくれた。(僕たちの)素晴らしい思い出をいっぱい作ってくれた。(少納言)

筆者訳：○小学校教给我们很多重要的东西，让我们有很多美好的回忆。

*小学校教给我们很多重要的东西，给我们有很多美好的回忆。

(29)では、「思い出」は「僕たち」の所有物と見なすことができる。「思い出を作る」という動作主は「僕たち」であり、誰かが「思い出」を作って与えるわけにはいかない。従って、「モノの授与」という意味が表されていない。「テクレル」によって、「小学校のおかげで素晴らしい思い出をいっぱい持つ」ことに対し「僕たち」がありがたく思っているという意味合いが読み取れる。即ち、作成動詞である「作る」があっても、文全体が「モノの授与」の意味を表さなければ、“給”構文に訳せない。

従って、李(2009)では、作成動詞の一つの条件だけで、「テクレル」構文が“給”構文と対応していると主張しているが、日中翻訳上その条件は不十分であると言える。

4.4.2. “給”構文に訳せない場合

「ノ」格で受影者を導く「テクレル」構文のうち、“給”構文に訳せず、無標構文にしか訳せないのは132例である。該当する例は以下のものである。

(30) 父は私の注意を母よりは真面目に聞いてくれた。

中訳：父亲比母亲认真地听了我的话。

筆者訳：*父亲比母亲认真地给我听了话。

(31) 駅長は大体において僕の依頼を引受けてくれた。

中訳：站长大体上接受了我的要求。

筆者訳：*站长大体上给我接受了要求。

(30)(31)では、先行動詞の動作対象はそれぞれ「私の注意」「僕の依頼」である。しかし、動作主の動作によって、「注意」「依頼」に何らかの変化が生じることが表されていない。つまり、受影者には変化を起こすわけではない筆者訳のように、(30)(31)の「テクレル」構文は“給”構文に訳せないと考えられる。

4.5. 「ノタメニ」で受影者を導く「テクレル」構文

表3により、「ノタメニ」で受影者を導く「テクレル」構文は合わせて388例であることが分かった。中国語の授受有標構文に訳すことができるのは134例である。そのうち“給”構文に訳すことができるのは112例(aタイプ+bタイプ)である。

4.5.1. 必ず“給”構文に訳さなければならない場合

日中翻訳上、“給”構文に訳さないと、「テクレル」構文の意味が適切に表現できない文は以下のようなものである。表3によれば、必ず“給”構文に訳さなければならない「テクレル」構文は合計61例である。これらの例文は「モノの授与」の意味

の有無によって、二種類に分けられる。以下の(32)(33)は、「モノの授与」を表しているものである。

(32) (彼のために)水路であれば船を、陸路であれば馬やかごや車を用意してくれます。

中訳：走水路，要给他准备船只，走陆路，要为(给)他预备马车和轿子。

筆者訳：#走水路，要准备船只，走陆路，要预备马车和轿子。

(33) とにかく東京でのねぐらを、彼は、おれのために発見してくれたのだからな。

中訳：不管怎样，是他给自己找的这个“窝”！

筆者訳：#不管怎样，是他找的这个“窝”！

(32)(33)では、受影者はいずれも先行動詞の項ではなく、構文上括弧に示すように「ノタメニ」で受影者を表示している。また、(32)(33)においては、先行動詞の「用意する」「発見する」といった動作によって、「船等の交通手段」「ねぐら」というものが動作主の領域に現れる。さらに、「テクレル」との結合で、それらのものが動作主から受影者へ授与される意味が表されている。それによって、「船等の交通手段」、「ねぐら」の利用者が受影者になると思われる。即ち(32)(33)の例文には、「テクレル」があるからこそ、受影者に対する「モノの授与」の意味が付与されると考えられる。従って、(32)(33)の「テクレル」構文は必ず“給”構文に訳さなければならない。(32)の中訳において“为”を使うのは重複を避けるためであるので、“为”を“给”に置換しても意味が変わらない。中訳では、“给”の有標形式を取り除くと、筆者訳のように不適切な訳文になってしまう。さらに、「わざわざ誰かのために動作をする」というニュアンスもなくなってしまうので、もとの「テクレル」構文の意味とずれている。従って、(32)(33)の「テクレル」構文を“给”構文に訳すのは必須である。

一方、以下の受影者を「ノタメニ」で導く「テクレル」構文においては、「モノの授与」を表していないにもかかわらず、翻訳上必ず“给”構文に訳さなければならない。

(34) 学校の方も君が(僕のために)やってくれたそうだねえ。

中訳：听说学校的课你都给我上了。

- (35) 最初のうちこそナオミは(僕のために)家事向きの用をしてくれ、勝手元の方を働きもしましたが。

中訳：只有在开始的那一段时期里，纳奥米给我做家务，也在厨房里干活。

(34) (35)においては、先行動詞の「やる」か「する」を通して、「学校の方」「家事向きの用」を誰かに授与するわけではなく、ある動作を行うだけである。一方、「テクレル」の付け加えによって、動作主は受影者のためにある動作を意図的に行う意味合いが読み取れる。即ち、この場合、「テクレル」は「モノの授与」ではなく、動作の受益者を表示する機能を果たしている。言い換えれば、「テクレル」によってそもそも先行動詞の意味によって読み取れない受影者の存在が表現されているのである。この「テクレル」による「受影者の存在」は日中翻訳上不可欠な要素であると考えられる。以下の例を見てみよう。

- (35)' 最初のうちこそナオミは(僕のために)家事向きの用をしてくれ、勝手元の方を働きもしましたが。

筆者訳：#只有在开始的那一段时期里，纳奥米做家务，也在厨房里干活。

(35)'の訳は不適切であると思われるが、それは対応する日本語の文が「最初のうちこそナオミは家事向きの用をして、勝手元の方を働きもしましたが」というものであり、動作は受影者と全く関係なく、元の「テクレル」構文の意味を表さないからである。

但し、ただし、「テクレル」による「受影者の存在」のみでは、「テクレル」構文は必ずしも“給”構文に訳すわけではない。(34) (35)では、受影者の領域にあるものに対して、動作主が受影者のために働きかけることによって変化を起こし、その変化を受影者が現実的な利益として受け止めることが含意されている。具体的に言えば、(34)ではもともと受影者が担当していた授業の内容を動作主が済ませたという変化が生じる。(35)では、受影者がやるべき家事を受影者の代わりにナオミがやることによって、受影者の家事が済んだという変化が起きる。以下の文のように受影者に変化が起こったという意味合いが読み取れなければ、“給”構文に訳せない。

- (36) 太郎は私のために図書館へ行ってくれた。(作例)

筆者訳：*太郎给我去了图书馆。

正訳：○太郎为我去了图书馆。

(37) 太郎は私のために結婚してくれた。(作例)

筆者訳：*太郎给我结婚了。

正訳：○太郎为我结婚了。

(36)(37)では、「行く」「結婚する」といった動作は動作者自分自身の動作であり、受影者の「私」の領域にあることに対して働きかけるものではない。つまり、その動作によって、受影者の領域に変化を起こすわけではないと思われる。「テクレル」で受影者の恩恵的感情を表すが、その恩恵的感情を“給”構文で表すことができない。従って、“給”構文に訳すと、筆者訳で示すようにいずれも非文になってしまう。

4.5.2. “給”構文と無標構文のいずれにも訳す場合

表3によれば、「ノタメニ」で受影者を導く「テクレル」構文においては、“給”構文と無標構文のいずれにも訳し得るのは51例である。以下の節から、その翻訳の条件に関して分析を行う。まずは以下の例文を見てみよう。

(38) 時間つぶしに、女の飲むような甘いコクテルを拵えて貰って、それをホンの一と口ずつ、舐めるように啜っていたのに過ぎないのですが、そこへ彼女が料理を運んで来てくれたので…

中訳：为了消磨时间，我要了女人喝的甜鸡尾酒，一小口一小口抿着。这时，纳奥米端菜来了。

筆者訳：为了消磨时间，我要了女人喝的甜鸡尾酒，一小口一小口抿着。这时，纳奥米给我端菜来了。

(39) 永松が(私のために)持って来てくれる餌で、やっと生きている始末さ。

中訳：就靠永松拿来些吃的才勉强活着。

筆者訳：就靠永松给我拿来些吃的才勉强活着。

(38)(39)においては、先行動詞の「運んでくる」「持ってくる」という動作によって「料理」「餌」のモノを誰かに授与する意味が含まれているので、先行動詞による「モノの授与」の意味を表している。そのモノの受け手は「ノタメニ」で導く受影者である。つまり、(38)(39)では、先行動詞の意味だけによって、あるモノが動作主の動作で受影者に授与されるということが表されている。コーパスの訳は“給”構文で訳されておらず、文脈で「モノの授与」が読み取れる。筆者訳に示すように、“給”構文に訳した場合には、「モノの授与」の意味を明確に表すことが可能になる。つまり、(38)(39)の日本語の文は「テクレル」の付加によって、受影者の恩恵的感情を表すのみであり、「モノの授与」の意味に関わっていない。そのため、「ノタメニ」で受影者を導く「テクレル」構文では、先行動詞によって受影者への「モノの授与」を表す場合に、“給”構文と無標構文のいずれにも訳すことができる。

4.5.3. “給”構文に訳せない場合

表3では、「ノタメニ」で受影者を導く「テクレル」構文のうち、“給”構文に訳せず、無標構文にのみ訳すのは276例であり、以下のような例文が該当する。いずれも「モノの授与」の意味を表していない。

(40) 6時半に待ち合わせの場所へ行くと、彼は、あたりまえのように(僕のために)立っていてくれた。

中訳：每天六点半我来到集合地点，他早已站在那儿了。

筆者訳：*每天六点半我来到集合地点，他早已给我站在那儿了。

(41) しかし、(わたしのために)真実に聞いてくれた人は君くらいのものだ。

中訳：不过，只有像你这样的人才认真听讲。

筆者訳：*不过，只有像你这样的人才认真给我听讲。

(40)(41)では、先行動詞の「立つ」「聞く」といった動作は、「モノの授与」の意味も表さず、何らかのモノの作成も表せないため、「テクレル」を付けても、「モノの授与」の意味にならないと考えられる。そのため、「モノの授与」の意味として“給”構文に訳すことができない。それに加え、(40)(41)においては、動作主の動作によって、受影者に何らかの変化が生じる意味合いが読み取れない。例えば、「立つ」

という動作はいずれも誰かに対して働きかける動作ではなく、動作主自身の動作を表す一項自動詞であるため、その動作によって動作主以外の人に変化をもたらすのは不可能であると考えられる。「聞く」という動詞は構文上「受影者の話」という「受影者の領域のこと」を項として取っているが、「聞く」という動作によって、受影者に何か変化が生じる意味合いは全く読み取れない。従って、「モノの授与」も表さず、「受影者に変化が生じる」という意味も表さないため、“給”構文に訳せない。

4.6. 「ノカワリニ」「ニカワッテ」で受影者を導く「テクレル」構文

表3によれば、「カワリ」「ニカワッテ」「カラ」で受影者を導く「テクレル」構文はそれぞれ1例である。以下、その2つの例について説明する。

- (42) おれの云おうと思うところをおれの代りに山嵐がすっかり言ってくれた様なものだ。

中訳：似乎我想说的话全由豪猪替我说完了。

筆者訳：≠似乎我想说的话全由豪猪给我说完了。

- (43) 僕にかわって彼の看病をやってくれそんな物好きな人間もみつからなかった。

中訳：而且也找不到能代为照料他的热心人。

筆者訳：○而且也找不到能替我照料他的热心人。

○而且也找不到能给我照料他的热心人。

(42)(43)において、「のかわりに」、「にかわって」は「代替」の意味で、動作主が受影者の代わりに、動作を行うという意味を表している。

(42)において、先行動詞の「言う」は李(2009)で指摘されている発話内容移動動詞である。李(2009)は発話内容移動動詞の場合、「テクレル」構文は“給”構文と対応していると主張しているが、(42)はそうではない。それは受影者が「言う」の発話内容の受け手ではないからである。(42)では、「言う」による発話内容は受影者の「おれ」ではなく、別の人に伝わるという意味を表している。それに対し、“給”構文に訳すと、発話内容の受け手は必ず「おれ」である。そのため、(42)は“給”構文に訳せない。

(43)では、先行動詞「やる」の意味に「モノの授与」が含まれていない。文脈によって、「彼」は「僕の恋人」であるので、受影者である「僕」の領域に存在すると考

える。動作主が「僕」の代わりに「彼」を看病することによって「彼の状態を変える」という変化をもたらすことが表される。つまり、「僕」の領域に存在するものの状態が変わるので、「僕」の領域に変化が生じていると見なすことができる。そのため、「給」構文に訳さなければならないはずであるが、「にかわって」という語彙の意味に従って訳せば、「替」構文にも訳し得る。

4.7. 「カラ」格で受影者を導く「テクレル」構文

検索された実例のうち、「カラ」格で受影者を導く「テクレル」構文は1例しかない。

(44) 話をしたことはなくても、彼女はボクから何かを感じ取ってくれたのだろう。

中訳：我尽管没曾与那女孩交谈过，但我想她一定从我身上感受到了她认为极有价值的东西。

(44)では、「ボクから」によって、動作の方向性は受影者から離れることが表されている。即ち、「モノの授与」の意味を表しても受影者の「ボク」は受け手になる可能性はない。従って、「給」構文に訳すことができない。さらに、「感じ取る」という動作主の心理的な動作の動作対象は受影者領域の抽象物である。動作によって、その抽象物がなくなるわけではないので、変化を起こす意味を表せない。一方、以下の例は動作主の動作によって受影者の領域に変化を生じることを含意している。

(45) 太郎はわたしからこの重荷を取り除いてくれた。（作例）

筆者訳：○ 太郎给我卸下了这个重担。

○ 太郎从我身上卸下了这个重担。

(45)においては、「取り除く」によって「重荷」は受影者の領域からなくなるので、受影者に変化をもたらす意味合いが読み取れる。また、「から」という格助詞は先行動詞の「取り除く」によって現れるものである。そのため、「から」で導く受影者も先行動詞の項であり、「テクレル」によるものではない。従って、(45)は「給」構文に訳せるが、必須ではない。

4.8. 受影者が表示できない「テクレル」構文

本稿では、受影者が表示できない「テクレル」構文とは「ノタメニ」によって受影者を導くことができない「テクレル」構文のことを指す。以下の(46)(47)の例文において、あえて受影者を表示すると、いずれも非文になってしまう。このタイプの「テクレル」構文は239例である。そのうち、中国語の授受の有標構文に訳せないのは以下のようなものである。

- (46) 雨が降ると、なだれの威力が増大するかわりに、(*私のために)飛砂の量も
ずっと減てくれる。

中訳：一下雨，沙崩威力增大，飞沙的量要比平时少的多。

筆者訳：一下雨，沙崩威力增大，飞沙的量(*给/为/替我)要比平时少的多。

- (47) ああ、そのかず子のひめごとが(*私のために)よい実を結んでくれたらいい
けどねえ。

中訳：啊，和子的秘密事儿能够结出美好的果实就好啦。

筆者訳：啊，和子的秘密事儿能够(*给/为/替我)结出美好的果实就好啦。

筆者訳のように、中国語の授受有標構文は(46)(47)の訳文として、いずれも成り立たない。(46)(47)の文を意味解釈の面から見れば、先行動詞の動作によって「モノの授与」の意味を読み取ることが全くできない。また、受影者が補えないことから、「テクレル」の「受影者指示」機能も果たせない。それによって、受影者を必ず表示する“給”構文に訳すことができないのだと考えられる。さらに、先行動詞の「減る」「結ぶ」はいずれも人間がコントロールできないものである。その動作によってある物事の状態を表している。それに対し、“給”構文、“为”構文、“替”構文は動作主が意図的に誰かのためにある動作を行うという意味を表すので、翻訳上(46)(47)の意味に合わない。従って、受影者が表示できない「テクレル」構文は中国語の授受有標構文に訳せないと考えられる。(46)(47)においては、「テクレル」の付け加えて、話し手側が動作状態の出現をありがたく評価する恩恵的感情を表すのみである。

但し、検索された「テクレル」構文においては、構文上受影者を表示できないにもかかわらず、“給”構文に訳せる例が3つあった。

- (48) 君がもしここで乱暴を働いてくれると、僕は非常に迷惑する。

中訳：你要是一味地胡闹，我是吃不消的。

筆者訳：你要是一味给我胡闹，我是吃不消的。

(49) わりや(汝は)飛んでもねえことを為てくれたなあ。

中訳：你给我闯下了大祸。

筆者訳：#你闯下了大祸。

(50) 困ったことをしてくれたな。

中訳：你怎么尽给我找麻烦。

筆者訳：#你怎么尽找麻烦。

(48)～(50)の「テクレル」構文では、動作者の動作によって、受影者としての話し手側に迷惑をもたらしたことを表している。その迷惑の意味はそれぞれ「僕は非常に迷惑する」「飛んでもねえこと」「困ったこと」という形で表されている。

山田(2004:216)は「間接構造の場合には、テクレルがないと受影性が感じられず、その分客観的な表現となり、話者の関与が感じられなくなる」と述べている。(48)～(50)の例を見れば、「テクレル」による「話者の関与」の機能は日中翻訳上“給”構文に訳し得るが、(48)は“給”構文に訳さなくてもよいのに対し、(49)(50)は必ず“給”構文に訳さなければならない。その理由は何だろうか。

(48)では、「乱暴を働く」によって、単純に動作を行うことかその動作の結果を暗示することのような二通りの意味が含まれている。「テクレル」の付加によって、受影者としての話者がその動作に対する評価を示すことあるいは話者は動作の結果の受け手であるという「モノの授与」の意味を表している。後者の場合は“給”構文に訳すことができるが、前者の場合は訳せない。従って、(48)は必ず“給”構文に訳されるわけではない。

(49)(50)では、「飛んでもねえこと」「困ったこと」によって、動作の結果が表されている。「テクレル」で話し手側がその結果の受け手であることが明らかにされている。つまり、「テクレル」による「モノの授与」を表していると言える。日中翻訳上、この「テクレル」による「モノの授与」の意味が不可欠であるため、“給”構文に必ず訳さなければならないわけである。そうしないと、(49)(50)の筆者訳の示すように、動作と話し手側の関係が不明になってしまい、対応する日本語の文も「飛んでもねえことをしたなあ」、「困ったことをしたな」となり、明らかに「テクレル」文の意味とずれてくる。

5. 「テクレル」構文に関する日中翻訳規則のまとめ

4.1 節から 4.8 節の説明をまとめると、「テクレル」構文に関する日中翻訳の規則は以下ようになる。

- ① 「テクレル」による「モノの授与」を表す「テクレル」構文は必ず“給”構文に訳す。
- ② 先行動詞の意味による「モノの授与」を表す「テクレル」構文は“給”構文と無標構文のいずれにも訳し得る。
- ③ 「ノタメニ」と「ノ」格で受影者を導く「テクレル」構文では、受影者の領域に変化が生じる場合、必ず“給”構文に訳す。「ノカワリニ」「カラ」で受影者を導く「テクレル」構文では、受影者の領域に変化が起こる場合、“給”構文に訳すことができるが、必須ではない。
- ④ 動作事態に対する話し手の評価を表す「テクレル」構文は授受の有標構文に訳せない。

上記の翻訳規則に基づき、以下のフローチャートを提案する。

表4 「テクレル」構文の日中翻訳フローチャートに関する検証

調査協力者出身地 例文の容認度	寧夏	福建	黒竜江	黒竜江	合計	比率
○	96	93	93	93	375	93.75%
△	4	7	6	7	24	6%
×	0	0	1	0	1	0.25%
合計	100	100	100	100	400	100.00%

○：自然 △：やや不自然だが、意味が通じる ×：不自然かつ意味が通じない

7. おわりに

本稿では、先行研究の問題点を指摘したうえで、「受影者の格」によって、「テクレル」構文を分類し、その意味特徴を究明した。それを踏まえ、「モノの授与」と「受影者の変化」といった基準に沿い、「テクレル」構文の日中翻訳規則のフローチャートを提案し、その有効性を検証した。今回対象としなかった「てくれないか」などのモダリティを表す文も、日中翻訳規則および中日翻訳の角度から中国語の授受有標構文との対応を考えていかなければならないが、今後の課題として研究を続けていきたい。

参考文献

- 佐々木 勲人(1994) 「中国語の受益文」『言語文化論集』38 筑波大学 pp.315-325
- 朱 徳熙 (1979) 《与动词“给”相关的句法问题》《方言》2 pp.81-87
- 山田 敏弘 (2004) 『日本語のベネファクティブ—「てやる」「てくれる」「てもらう」の文法』 明治書院
- 楊 凱栄 (1994) 「受益表現について—“给”と“てあげる・てくれる”との比較を中心に」『九州国際大学教養研究』第1巻第1号 pp.103-124

- 李 森 (2009) 「「～テクレル」と中国語の“給(我)”の対照研究」 國學院
雑誌 110(7) 國學院大學総合企画部 pp. 1-14
- 盧 涛 (2000) 『中国語における「空間動詞」の文法化研究—日本語と英語と
の関連で—』白帝社

用例の出典

- 1 中日対訳コーパス 北京日本研究センター 2003
- 2 現代日本語書き言葉均衡コーパス(BCCWJ)少納言
- 3 現代日本語書き言葉均衡コーパス(BCCWJ-NT)中納言

ショウ シュンガイ／西南大学外国語学院
(2016年10月15日受理)